

中間評価結果（平成17年度採択研究課題）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究開発	日本大学 教授 高田 邦道	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 事故データの収集や効果評価などに課題はあるが、現段階での研究の見通し、進捗状況は概ね良好であるため、指摘事項に留意し、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

- ・ 最終的な成果物イメージの明確化が望まれる。
- ・ 「交通事故半減モデル」の効果評価を確実に言い、自治体への展開などに活用していくことが必要と考えられる。
- ・ 警察の交通事故データの収集について、見通しを明らかにしていただきたい。交通事故の専門家の参加について検討が必要と思われる。
- ・ 他地域への展開のポイント（「情報の収集方法」「情報のフィードバック」「実際の効果」）をより明確に意識し、汎用化のために打ち出していくことが望ましいと思われる。
- ・ 研究目標を実現するため、周辺自治体の導入意欲、受け入れ態勢等について、密接な連携体制を構築するなど、十分な検討をお願いしたい。

評価

- A：当初計画は順調に実施され、現行の努力を継続することによって目標達成が可能と評価される。
- B：当初目標を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意し、一層の努力が必要と判断される。
- C：このままでは当初目標を達成することは難しいと思われるので、評価者からの指摘事項に沿って、当初計画の適切な変更が必要と判断される。
- D：現在までの進捗状況に鑑み、今後の努力を待っても当初計画の達成は困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。